

ヘリオス [4593・100 株] 6月16日 東証マザーズ市場上場

2015年5月25日(月)

更新: 16時42分

株式会社フィスコ

再生医療関連の有力バイオベンチャー

投資スタンスと初値メド

ブックビルディング参加	_____
初値投資	_____
初値メド	_____

市場の注目度	★★★★
想定仮条件レンジ	1350円~1550円
予想PER	-倍~-倍
予想トレーディングレンジ 期間: 上場後1年を想定	1000円~2000円
予想PER	-倍~-倍

※★印は5段階評価

日程

仮条件提示	5月26日
ブックビルディング期間	5月28日~6月3日
公開価格決定	6月4日
申込期間	6月8日~6月11日
払込日	6月15日
上場日	6月16日

類似会社 3社

平均PER	-倍	→	-円
テラ<2191>	-倍(連)	→	-円
サンバイオ<4592>	-倍(連)	→	-円
J・TEC<7774>	-倍(連)	→	-円

(PERは5月25日現在の会社側予想ベース)

眼科手術用染色剤の開発・販売、iPS細胞由来網膜色素上皮細胞の再生医療用途の研究・開発・製造を手掛ける。中核的な事業領域と位置付ける iPSC 再生医薬品分野では、根本的治療法が確立されていない加齢黄斑変性の新たな治療法を開発している。

再生医療関連の有力バイオベンチャーとして度々メディアにも登場するなど知名度は比較的高い。ただ、一部では未だ赤字のバイオベンチャーに対する警戒感が残るうえ、公開規模が100億円を超える大型案件の低パフォーマンス傾向が初値買い意欲を後退させる可能性が高い。

公開規模については180億円前後となる見込みで、4/8上場のサンバイオ<4592>をも上回る大型案件となる。株主構成は比較的良好だが、需給面への警戒感は強まるだろう。足元のバイオ関連物色の動きを追い風に、どこまで人気を伸ばせるかが今後の焦点となる。想定公開価格を1550円(想定発行価格は1550円)とする。



銘柄紹介

ヘリオス [4593・100 株]

6月16日 東証マザーズ市場上場

2015年5月25日(月)

更新: 16時42分

株式会社フィスコ



新規公開株レポート

業績推移 (百万円・%)						
決算期	売上高	伸び率	経常利益	伸び率	純利益	伸び率
2011/12	0	—	0	—	0	—
2012/12	0	—	▲ 39	—	▲ 39	—
2013/12	500	—	179	—	85	—
2014/12	279	-44.0%	▲ 470	—	▲ 477	—
2015/12 予	73	-73.9%	▲ 1,588	—	▲ 1,591	—
予想 EPS/配当		単独: -円(上場時発行済株式数で試算)/0.00 円				

業績コメント

2014年12月期の業績は、売上高が2.7億円に対して、経常損失が4.7億円、純損失が4.7億円となっている。

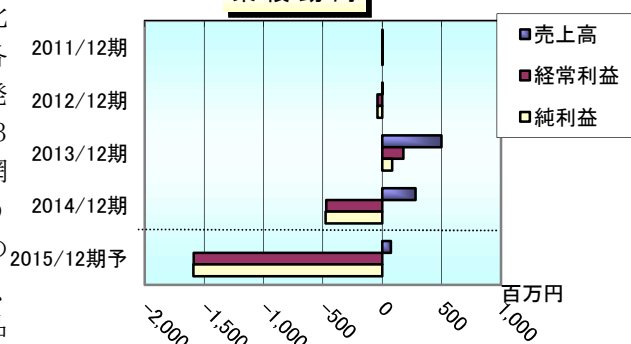
足元の再生医療業界では、2014年9月に理研等による臨床研究として行われた世界で初めてのiPS細胞由来RPE細胞シートに加齢黄斑変性罹患者への移植に関して、手術から半年経過後もがんができておらず、細胞シートが定着しており問題となる副作用は起きていない等、安全性及び有効性を示唆する発表が、2015年3月の日本再生医療学会においてなされた。

同社は、iPSC 再生医薬品の早期実用化を目指して、引き続き治験の準備として各種試験の実施等を進めたほか、将来の開発パイプラインの拡充に向けて、2015年3月、iPS アカデミアジャパンとの間で、網膜変性疾患以外を対象とした研究を行う目的でのiPS細胞使用に関する特許権の非独占的実施許諾契約を締結した。また、同社は、同月、国内におけるRPE細胞製品

の製造体制の構築を主たる目的として、同社と大日本住友製薬<4506>との合弁会社であるサイレジェンが実施した総額3億円の株主割当増資について、大日本住友製薬と同額である1.5億円の引受けを行った。

なお、2015年12月期の業績予想は、売上高が0.7億円に対して、経常損失が15.8億円、純損失が15.9億円を見込んでいる。

業績動向



銘柄紹介

ヘリオス [4593・100 株] 6月16日 東証マザーズ市場上場

2015年5月25日(月)
更新：16時42分
株式会社フィスコ



新規公開株レポート

基本概要	
所在地	東京都港区浜松町二丁目
代表者名(生年月日)	代表取締役社長 鍵本忠尚(昭和51年12月1日生)
設立	平成23年2月24日
資本金	15億3350万円(平成27年5月12日現在)
従業員	38人(平成27年3月31日現在)
発行済株式数(上場時)	43,777,000株(予定)
公開株式数	公募10,100,000株 売出一株 (オーバーアロットメントによる売出1,515,000株)
公開規模	156.8億円～180.0億円(OA含む)
事業内容	眼科手術用染色剤の開発・販売、iPS細胞由来網膜色素上皮細胞の再生医療用途の研究・開発・製造

売上高構成比率(2014/12期実績)		
品目	金額	比率
医薬品事業	279 百万円	100.0 %
合計	279 百万円	100.0 %

幹事証券団(予定)			
	証券会社名	引受株数	引受シェア
主幹事証券	野村證券(株)	未定	未定
幹事証券	みずほ証券(株)	未定	未定
幹事証券	大和証券(株)	未定	未定
幹事証券	SMBC日興証券(株)	未定	未定
幹事証券	三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)	未定	未定
幹事証券	JPモルガン証券(株)	未定	未定
幹事証券	エース証券(株)	未定	未定
幹事証券	(株)SBI証券	未定	未定
幹事証券	ふくおか証券(株)	未定	未定
幹事証券	西日本シティIT証券(株)	未定	未定

銘柄紹介

ヘリオス [4593・100 株]

6月16日 東証マザーズ市場上場

2015年5月25日(月)

更新: 16時42分

株式会社フィスコ



新規公開株レポート

大株主上位 10 位

順位	株主名	保有株数	保有シェア
1	鍵本 忠尚	28,800,000 株	77.23 %
2	大日本住友製薬株式会社	1,500,000 株	4.02 %
3	竹田 英樹	870,000 株	2.33 %
4	みずほキャピタル株式会社	510,000 株	1.37 %
5	株式会社ニコン	500,000 株	1.34 %
6	株式会社新日本科学	300,000 株	0.80 %
6	澁谷工業株式会社	300,000 株	0.80 %
8	ヘリオス投資事業有限責任組合	297,000 株	0.80 %
9	松田 良成	275,000 株	0.74 %
10	テラ株式会社	100,000 株	0.27 %
合計		33,452,000 株	89.70 %

その他情報

手取金の使途	研究開発費及び設備資金に充当する予定であり、具体的には以下のとおり。 (1) 日本における加齢黄斑変性を適応症とする iPS 細胞由来網膜色素上皮細胞移植法の研究開発費として (2) 欧米における加齢黄斑変性を適応症とする iPS 細胞由来網膜色素上皮細胞移植法の研究開発費として (3) 日本における IT インフラ等及び研究設備への設備投資として (4) 新規シーズ(実用化に繋がる可能性のある技術・ノウハウ)の獲得とライセンス取得・維持その他の研究開発費として	
関係会社	-	
VC 売却可能分(推定)	-社 -株(売出し・保有期間などの制限があるもの以外)	
直近有償第三者割当	年月日	2013年9月20日
	割当先	ヘリオス投資事業有限責任組合
	発行価格	1,000円 ※株式分割考慮済み

ヘリオス [4593・100 株]

6月16日 東証マザーズ市場上場

2015年5月25日(月)
更新: 16時42分
株式会社フィスコ



銘柄紹介

医薬品の研究開発を展開するバイオベンチャーである。対象分野は、(1) 化学物質の合成によって医薬品を作製する従来型の化合物医薬品(低分子医薬品)分野と、(2) 同社が中核的な事業領域と位置付けている iPS 細胞に関連する技術を活用した再生医療等製品(iPSC 再生医薬品)分野である。

(1) 化合物医薬品分野

化合物医薬品分野では、九州大学の研究グループが発見したBBG250という染色性の高い色素を主成分とした眼科手術補助剤を、産学連携機構九州からの独占的ライセンスに基づき開発している。

上記の眼科手術補助剤に関する日本以外の全世界向けの独占的なサブライセンスをDutch Ophthalmic Research Center International B.V.(DORC社)に付与している。DORC社は、EU加盟国において、EU安全規格に適合したCEマーキング適合製品として、同補助剤を製造・販売している。

日本国内については、わかもと製薬<4512>に内境界膜を含む網膜等、後眼部についての独占的サブライセンスを付与しており、わかもと製薬が製造販売承認の取得に向けて開発を進めている。

同社は、全世界で特許技術の実施許諾(サブライセンス付与)を行っている。欧州におけるサブライセンス先であるDORC社は、既にBBG250を使用した眼科手術補助剤を製造・販売しており、同社は、この売上に対してロイヤルティ収入を受け取っている。また、欧州以外の地域においてもサブライセンス先が開発を進めており、そのうち日本以外の地域においてはDORC

社から承認を取得した後にロイヤルティ収入等を、日本においてはわかもと製薬からマイルストーン収入及び承認を取得した後に製品の販売に応じた収入を得る計画となっている。

(2) iPSC 再生医薬品

iPSC 再生医薬品は、iPS細胞を分化誘導して作製した健康な細胞を移植することによって、高齢化などにより機能不全に陥った細胞等を置換して機能を回復することを目的としている。

同社では、理化学研究所(理研)が中心となって考案したiPS細胞由来の網膜色素上皮細胞(RPE細胞)への分化誘導方法等に関する知見を基にして開発した同社独自のノウハウを用いて、iPS細胞から分化誘導したRPE細胞の効率的な培養方法の確立に成功した。そこで、同社は、iPSC 再生医薬品として製剤化されたRPE細胞を使って、根本的な治療法が確立されていない加齢黄斑変性の新たな治療法を開発すべく、より安全かつ効率的な生産方法の確立や治験に向けた準備を進めている。

国内では、共同開発先である大日本住友製薬<4506>からマイルストーン収入を得るとともに、開発費用の負担を得ている。また、同社は、大日本住友製薬との合弁会社であるサイレジェンに製造及び販売促進業務を委託し、サイレジェンに対してこれらの委託費用を支払う一方で、サイレジェンの同社に対する製品売上に対してロイヤルティ収入を得るとともに、サイレジェンから供給を受けたRPE細胞を医療機関に販売することにより製品の販売収入を得る計画となっている。

ヘリオス [4593・100 株]

6月16日 東証マザーズ市場上場

2015年5月25日(月)

更新: 16時42分

株式会社フィスコ



新規公開株レポート

投資のポイント

再生医療関連の有力バイオベンチャーとして度々メディアにも登場するなど知名度は比較的高い。ただ、一部では未だ赤字のバイオベンチャーに対する警戒感が残るうえ、公開規模が100億円を超える大型案件の低パフォーマンス傾向が初値買い意欲を後退させる可能性が高い。バイオ関連では、4/8 上場のサンバイオ<4592> (公開規模 149.5 億円) が公開価格を14.5%下回る初値となった。その後、サンバイオは公開価格水準を一時回復しており、大型バイオ案件における初値買いへの警戒感はやや後退しているとみられるが、初値の伸びは依然期待しにくいだろう。

同社が中核的な事業領域と位置付けるiPSC 再生医薬品分野では、根本的治療法が確立されていない加齢黄斑変性の新たな治療法を開発している。同研究では開発の進捗に伴って大日本住友製薬<4506>からマイルストーン総額16億円(うち7億円は受領済み)を受け取るほか、開発費用のうち最大52億円を大日本住友製薬が負担する。iPS細胞の実用化に最も近いと言われる眼科分野で開発を行っている点が評価される可能性がある。

業績面について、2015年12月期は売上高が0.7億円(前期は2.7億円)、経常損益が15.8億円の赤字(前期は4.7億円の赤字)と赤字継続の見通しとなっている。治験の準備として各種試験の実施等を進めているほか、将来の開発パイプライン拡充に向けた取り組みも行っている。

公開規模については180億円前後とな

る見込みで、サンバイオをも上回る大型案件となる。鍵本社長が7割超の株式を保有するほか、大日本住友製薬やニコン<7731>などが大株主として名を連ねている。ベンチャーキャピタル保有分も少なく、株主構成は比較的良好と言えるが、公開規模の大きさから需給面への警戒感は強まるだろう。足元のバイオ関連物色の動きを追い風に、どこまで人気を伸ばせるかが今後の焦点となる。仮条件の水準やブックビルディングの動向に注目したい。

銘柄紹介

ヘリオス [4593・100 株] 6月16日 東証マザーズ市場上場

2015年5月25日(月)
更新: 16時42分
株式会社フィスコ

投資スタンスの見方

Aggressive (アグレッシブ)	積極的参加	投資収益率 100%以上が見込まれる案件
Active (アクティブ)	やや積極的参加	投資収益率 50%以上が見込まれる案件
Passive+ (パッシブ・プラス)	やや消極的参加	投資収益率 20~50%未満が見込まれる案件
Passive- (パッシブ・マイナス)	消極的参加	投資収益率 0~20%未満であり、マイナスの可能性のある案件
Negative (ネガティブ)	参加見送り	投資収益率がマイナスになる可能性が予想される案件

《 重要事項(ディスクレマー) 》

株式会社フィスコ(以下[フィスコ]という)は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

掲載される情報はフィスコが信頼できると判断した情報源をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、フィスコは保証を行っておらず、また、いかなる責任を持つものではありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

フィスコが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、投資信託、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少する事もあり、価値を失う場合があります。

本資料は、本資料により投資された資金がその価値を維持または増大する事を保証するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

フィスコおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ



■ 本資料のご留意事項

本資料は投資判断の参考としての情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。銘柄の選択、投資判断の最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

本資料は、SBI証券が、株式会社フィスコが信頼できると判断して作成したレポートを有償で提供を受けておりますが、その正確性、安全性等について保証するものではありません。本資料に掲載された意見は、作成日における判断であり、予告なしに変更される場合があります。

本資料の著作権、知的所有権等一切の権利は株式会社フィスコに帰属しますので、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

■ 手数料およびリスク等について

国内株式取引の手数料

・株式取引にあたっては、所定の手数料がかかります（手数料はお客様の取引コース、取引チャネル、取引プランや売買代金等により異なることから記載しておりません）。詳しくは、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法に係る表示又は上場有価証券等書面等をご確認ください。

国内株式取引のリスク情報について

- ・国内株式の取引は、株価の変動等により損失が生じるおそれがあります。
- ・信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行うことができることから、時として多額の損失が発生する可能性を有しています。
- ・信用取引の対象となっている株価の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、その損失の額が、差入れた委託保証金額を上回るおそれがあります。

留意点

- ・取引コースや商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、ウェブサイト、等をよくご確認ください。または最寄の支店までお問い合わせください。
- ・最終的な投資判断は目論見書の内容をご確認ください。目論見書は当該銘柄の取扱証券会社のホームページ等で入手いただけます。

商号等：株式会社 SBI証券 金融商品取引業者

登録番号：関東財務局長（金商）第44号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会